

白鷺教育会 姫路支部だより

令和2年7月11日発行・発行人 芦田 守

コロナに負けるな! 学校再開に応援を!

白鷺教育会 姫路支部 会長 芦田 守



中国から広がり始めた新型コロナウイルス感染、年度末の3月開催予定の退職会員交流会の中止を皮切りに、令和2年度の支部事業の多くを中止決定とさせていただきました。そのため、総会資料を全会員にと、居住地学校の教頭先生に総会資料を届けていただいたり、姫路市外の方には郵送させていただいたり令和元年度の事業経過と決算・監査報告、2年度の予算等のご理解をいただくようにしました。コロナで始まったこの1年、よろしく願いたします。

昨年は白鷺教育会120周年を迎える記念事業への協力金納入にご協力いただきました。お陰様で621,000円のご協力を得ることができました。ところが、このような状況のため、記念事業すべてを2021年に延期することが決まりました。来年の記念事業開催時には、是非ともご参加ご来場いただきますようお願いいたします。

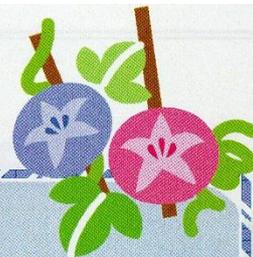
さて、マスクを購入しておかなければと各所のドラッグストア巡りを体験しましたが、手に入ることはありませんでした。頂いた手作りマスクを使用しながら過ごしていましたが、5月半ばには、店頭でマスクが並ぶようになってきました。国会で安倍首相が「マスクを各家庭に配付」と宣言して幾日経ったのでしょうか。もうすぐ6月です。まだ家庭には届いていません。中国でのコロナ感染が広がり始めた途端にマスクだけでなく多くの工業製品が経済大国中国に依存している実情を改めて認識した昨今です。

一方、学校現場に目を向けると児童生徒たちの節目を祝う行事である卒業式や入学式が簡素化となり、3月の学期末を迎える前から臨時休校が相次ぎました。兵庫県では4月7日に出された緊急事態宣言が、5月21日に解除となり児童生徒の登校する姿が見られるようになりました。児童生徒の安心と安全の確保と教育保障に向けた学校教育の活動再開となりました。このような時に、同じ学校現場に身を置いていた退職会員の応援が必要です。地域の学校からの要請があれば、快く協力していただきこの難局を乗り越えましょう!

令和2年度 新入会員

岸野雅子 (谷外小)	間嶋英一 (青山小)	山上里夏 (船津小)	山口直樹 (林田小)
高濱 真 (大津茂小)	乗船博之 (香呂南小)	曾谷剛史 (安室小)	神戸智子 (山田小)
堀美和子 (峰相小)	美安周平 (安富中)	山中和興 (網干中)	多田好宏 (城山中)
坂村昭博 (学校指導課)	相生守信 (教育研修課)	古田誉興 (育成支援課)	
柴本弘二 (健康教育課)			

校長・教頭に昇任された方々からの新たな決意



「次代を担う子どもたちの成長を願い・・・」

「日々刻々」「激動」、これらの言葉に象徴されるように、予想だにできなかった展開で社会全体が動揺し、様々な情報が行き交う中で、新たな課題を解決しようとする人々が知恵を結集し取り組んでいる現状があります。よく言われる「先行き不透明」ということかもしれません。

いま、「令和」新時代を迎え、様々な変化に柔軟に対応しながら生涯にわたる「可能性」と「チャンス」を広げるとともに、自他を認め、たくましく生き抜く子どもたちを育成することがより一層重要となってきました。このような中、学校のリーダーとして「未来に輝く子どもたちや保護者のため」「地域発展のため」の学校経営に、深く重責を感じています。

根をしっかりと張り、小さな蕾から大輪の花を咲かせるには、並々ならぬ努力の過程が必要です。子どもたちの未来を考えた時、すべての子どもが「可能性」を持っています。夢実現に向け、数少ない「チャンス」を逃さず、先見の目や判断力、行動力を日々の学校生活の中で体得できるよう、教職員が高い志を持って教育活動に邁進することが大切であると考えています。

創始120年の歴史ある白鷺教育会の諸先輩の先生方のお話や機関誌を拝聴、拝読させていただくと、やはり「鋭い感性」、「子どもたちとの喜怒哀楽を通じた実践経験」等、今日まで受け継がれてきた財産としての有難味がとても感じられます。その実践から生まれた先生方の教育観をしっかりと継承し、教職員とともに生き生きとした魅力ある学校づくりに努めていきます。

菅野中学校 校長 永富史利

「校長としての新たな思い」

はるか昔のことですが、それまで他の職種に携わっていた私が、臨時教諭として教育現場で働くこととなり、子どもたちの明るく元気な姿にすっかり魅了されてしまいました。一年間責任をもってしっかりと学級経営をしたいという思いで本採用になり、以来、様々な学年、様々な子どもたちに関わってきました。一人も取りこぼさない学級経営を目指し、保護者との関係にも常に全力で取り組んできました。教頭になり、学級という枠を超えて学校全体を見る視点、地域との繋がりを意識する視点を得ました。今年度校長となり、教育行政の中の学校という新たな視点を持って日々の学校経営に臨んでいます。新型コロナ禍の非常事態の中での学校経営においては、周囲の校長先生方の助言や連携に感謝の絶えない毎日です。

そして今、学校は子どもたちの育ちの場であるということを改めて実感しています。子どもたちの顔を思い浮かべながら教材作りに専念した教諭時代の思いを原点として、学校経営に取り組んでいきたいと思えます。白鷺教育会の先輩方のお話は、いつも教育に対する熱い思いにあふれ、その都度身が引き締まる思いになります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

八木小学校 校長 東末菜穂子



🌸🌸🌸🌸 新しい船出にあたって 🌸🌸🌸🌸

この度、坊勢小学校の教頭を拝命しました治郎丸 猛です。市教委では3年間お世話になり、初めて管理職という立場となり身が引き締まる思いです。4月7日に子供たちの前で着任挨拶をし、入学式を終え、さあこれからという所でしたが臨時休校延長となりました。学校教育にとってピンチの時ですが、姫路市教育委員会の支援を受けながら、ピンチをチャンスに変えるべく Google サイト等を活用した家庭学習支援や配信メールを使った密な連絡など、各家庭や子供たちとつながるための新たな取組を構築できつつあります。保護者や地域の方の声を聞く中で、社会の中で学校教育の果たす役割が大きいことを再認識できました。

再開後は子供たちの健康面に留意しつつ、「学校へ来てよかった」「クラスの仲間と一緒に勉強できてよかった」と思える雰囲気職員とともに作っていきます。また、各種行事の中止も検討されていますが、私自身が坊勢の魅力を早く吸収し、学校教育に活かしたいと考えております。

話は変わりますが、昨年度教頭試験を受験するにあたり、白鷺教育会の先輩方から学校運営の講話や管理職としての心構えなど多くのことを教わりました。教頭という立場になりましたが、最近の教育の動向にアンテナを張り、学び続ける教師であり続けたいと思います。今後も白鷺教育会の学習会に参加し、姫路の教育の伝統を繋いでいきたいと思っております。

坊勢小学校 教頭 治郎丸 猛

🌸🌸🌸🌸 新任教頭として ～夢を持ち続ける～ 🌸🌸🌸🌸

満開の桜の下、我が母校である大的中学校に着任し、14歳のときに抱いた夢「母校の教師になること」が長い年月を経て実現しました。大的中学校開校と同時に通い続けた校舎、毎日毎日走り続けたグラウンド、教室から見える青く輝く海、何もかもがなつかしく感動いっぱいスタートとなりました。しかし、今年度、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って緊急事態宣言が発令され、臨時休校となり、かつて誰もが経験をしたことのない異例の新年度になりました。新しい取組や変化する環境への対応にめまぐるしく日々が過ぎていく中で、いよいよ6月から学校が再開し、生徒たちの元気な姿と笑顔が戻ってきます。

私は、教頭として校長を補佐し、学校教育目標「ふるさとの自然と伝統ある文化を誇りに思うこころ豊かなたくましい人間を育む」の実現に向けて教職員と協働し、取り組んでいきたいと思っています。そして、生徒たちには今回の臨時休校の経験を生かし、変化に柔軟に対応していける力、人とのつながりの中で生涯を通じて主体的に学び続ける力をつけてほしいと願っています。

最後に、白鷺教育会の諸先輩方が築いてこられた歴史の重みと教育に対する熱い思いをしっかり受け継ぎ、次世代につないでいけるよう日々精進していきたいと思っております。

大的中学校 教頭 佐竹美保子

物故者のお知らせ (35号以降)

安積 一道(昭48) 令和2年1月 加藤 嘉昭(昭36) 令和2年3月
山下 昌克(昭30) 令和2年4月 藤井 昇(昭28) 令和2年4月

心よりご冥福をお祈りいたします



研修講座 今年度の現職研修会はすべて中止しました

新型コロナウイルスの世界的な広がりの中、3月末から全国の学校が臨時休校になりました。卒業式や入学式ができなかったり、夏休みの短縮や9月入学が話題になったりするなど、子どもたちの生活はもちろん、学校教育全体への影響は計り知れません。6月から、ようやく登校ができるようになりましたが、一日も早く子どもたちに通常の学校生活が戻ることを願わずにはおれません。

このような状況から、白鷺教育会姫路支部では本年度予定していました「授業改善」「学級経営」「学校運営」「教職基礎」の4講座をすべて中止することにいたしました。ご了承ください。

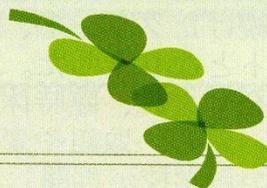
大災害などの自然危機が起きると社会構造まで変わるといわれます。このたびのコロナ禍でも、子どもたちの生活基盤である家庭や地域、学校の機能等が見直されたり、オンラインによる学習が工夫されたり、学力保障から学校の制度改革までさまざまな教育対策が考えられてきました。

いつの時代でも教育の本質は同じだと思いますが、これからの学校教育では「学びと教え」の関係をより大きな視点から考えるとともに、子どもの学びの支援や個別学習のあり方などについて、時代に即した新たな方法の研究や実践が求められていくのではないのでしょうか。

研修部 進藤 正洋

令和2年度 白鷺教育会姫路支部役員

会長	芦田 守				
副会長	進藤 正洋	青井 知子	谷口 和良	魚住 妙子	
推進委員	横内 恵	坂田 紀子	藤井三津子	井上 妙子	
	平田己江子	菅原 勝則	田中 智也	原田 貞雄	
	田口 純子				
顧問	平野 成介				
支部委員長	本田 壽彦				
監事	山添 俊和	芝 雅司			



〈 活動組織 〉

総務	田中 智也	原田 貞雄		
研修	進藤 正洋	谷口 和良	横内 恵	菅原 勝則
厚生	魚住 妙子	平田己江子		
広報	青井 知子	坂田 紀子	藤井三津子	田口 純子
庶務・会計	井上 妙子			

白鷺教育会姫路支部 会員数 626名(令和2年4月6日現在)

編集後記

各学校では、子ども達が安心して学べるよう、新たな対応や様々な配慮・工夫に尽力されておられることと推察致します。そのお忙しい中、この度昇任された4名の方々からご寄稿いただき、お陰様で第36号を発行することができました。心より感謝申し上げます。

一日も早くコロナが収束し平常が戻ることを願うとともに、今後も微力ながら実のある機関紙の発行に努めたく思っております。

(広報部 青井知子・坂田紀子・藤井三津子・田口純子)